

# 普光寺だより

令和4年8月10日第4号

真言宗豊山派  
浦佐毘沙門堂別当普光寺

## 日本を救った

### ブツダの言葉

普光寺住職 樺澤賢正

残夏の候、檀信徒の皆様方には益々ご清祥のことと存じ上げます。

平素より菩提寺の護持、運営に対し格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

パンデミック第七波の中、行動制限のないお盆を迎えようとしていますが、それぞれのご判断により有意義なお盆をお過ごしただきますよう祈念申し上げます。

今、毎日報道されているロシアのウクライナへの軍事侵攻や核の脅威の現実に触れる時、改めて日本ほど恵まれていて、ありがたい国はないと思うところがあります。それは、私たちが享受し



ている現在の日本の繁栄は、一人のスリランカ（旧セイロン）の若き政治家の善意が大きく影響していることに繋がります。忘れかけていた、知られていないことでもあまり知られていないことかもしれませんので、紹介します。

日本とスリランカは、戦後、サンフランシスコ平和条約発効を機に国交を樹立しました。後に大統領となるジャヤワルダナは1951年（昭和26）サンフランシスコ講和会議にセイロン（現スリランカ）代表として出席した際、「憎悪は憎悪によって止むことなく、愛によつて止む」という『法句経』にある仏陀の言葉を引用し、スリランカの賠償請求権を放棄、日本を国際社会の一員として受け入れるよう訴えました。この演説は拍手に包まれました。そこから会議は一変し、賞賛の嵐で会場の窓のガラスが割れるほどであったと報じら

れ、「褐色のハンサムな外交官がセイロン島よりやって来て、世に忘れ去られようとしていた国家間の礼節と寛容を声高く説き、鋭い理論でソ連の策略を打ち破った」と評されました。これにより先の大戦の日本の賠償の多くは免除されることとなり、急速な経済的発展へとつながるのです。

実はアメリカ同時多発テロ事件（2001年9月11日）が起きたとき、ダライ・ラマ14世はブッシュ大統領（当時）に『法句経』のまったく同じ言葉を送っていました。しかしブッシュ大統領が受け入れることは、ありませんでした。また2015年11月にパリで起きた同時多発テロの犠牲となり妻を亡くした仏人ジャーナリストはSNSでテロリストに向けて「君たちに憎しみという贈り物はあげない」とつづりました。これも『法句経』の言葉と同じ意味、同じ思想です。国家破綻したスリランカの再興を祈念します。